

第二演習・2015年度後期****

A. 予定 (同学年は五十音順)

第三演習室：

隔週・2コマ → 1コマ1人

60分の発表+30分の質疑応答

担当者は資料を準備の上、発表。パワーポイント使用可。

	担当者1	担当者2
10月15日		
10月29日		
11月5日		
11月12日		
11月26日		
12月3日		
12月10日		
12月24日		

B. 関連するプログラム

1. 研究室紀要の刊行：3月刊行、「ティリッヒ特集」
 - ・第二演習での発表 → 論文、書評、サーベイ
2. 特別研究発表会：2016年3月（日本基督教学会・近畿支部会の予行）
 - ・学会発表の予行+書評・サーベイ
 - ・原則的には：大学院生全員が参加（博士後期課程だけでなく）

C. その他

- ・飲み物の準備：担当M
数種類の飲み物を準備する（種類はMで相談）。紙コップあるいはマイ・コップ。
- ・『基督教学研究』35号、原稿締めきり：10月末

***キリスト教学研究室とティリッヒ
—ティリッヒ歿後50年—**

1. 『キリスト教学研究室紀要』第四号の「ティリッヒ特集」
2. 1960年のティリッヒの日本訪問。
 - 5月25日の京都大学での講演「宗教と文化」
 - 5月27日、6月1日3日10日の京都大学での連続講義「宗教哲学の諸原理」
(高木八尺編訳『ティリッヒ博士講演集 文化と宗教』岩波書店、1962年)
3. 波多野精一
ティリッヒへの直接的言及は見られないが、問題意識・思想内容においてティリッヒときわめて類似している。

- ・「宗教的実在と象徴——波多野とティリッヒ」（現代キリスト教思想研究会『近代/ポスト近代とキリスト教』2012年、3-21頁）。
- ・「アガペーとエロース——ニーグレン・波多野・ティリッヒ」（京都大学基督教学会『基督教学研究』第27号 2013年、23-41頁）。

4. 有賀鐵太郎

- ・1934年に同志社大学で「社会主義的決断」（1933年）の講読（土居真俊『ティリッヒ』日本基督教団出版局、1960年、239頁）。
- ・1935年にユニオン神学校へ再留学、Th.Dの学位授与（1936年『オリゲネス研究』）。
ティリッヒ：1937-1955年、ユニオン神学校
- ・1960年のティリッヒ日本訪問の受け入れ側の中心の一人、講演の通訳
- ・『キリスト教思想における存在論の問題』（著作集4，創文社、1981(1969)年）
「第四章 現代神学における存在論的一断面」にて、ティリッヒを論じる。

5. 武藤一雄

- ・『神学と宗教哲学との間』（創文社、1961年）
「第三章 歴史主義の諸問題」「第四章 終末論の諸問題」
- ・「神学的宗教哲学について」（1983年）（『神学的・宗教哲学的論集Ⅱ』創文社、1986年）

6. 松村克己

- ・『根源的論理の探究』岩波書店、1975年。
「第一部
一 根源的論理の探究 二 信仰の論理——アナロギア 三 Analogia Imaginis」
におけるティリッヒ論

7. 水垣渉

- ・『ティリッヒ著作集 第二巻（倫理の宗教的基礎）』（白水社、1978年）の翻訳・解説。

8. 森田雄三郎

- ・1963-64年、ユニオン神学校留学（フルブライト留学生）
- ・『キリスト教の近代性』創文社、1972年。
「第九章 キリスト教の弁証の歴史性（実存論的神学と「伝道的神学」と「弁証神学）」
でティリッヒを論じる。

9. ティリッヒ研究会と学位論文

- ・ティリッヒ研究会、『ティリッヒ研究』創刊号～11号（2000-2007年）
<https://sites.google.com/site/kyotochristianstudies/home/tillich>
- ・芦名定道、今井尚生、川桐信彦、近藤剛、鬼頭葉子
↓
「キリスト教学」の学的基礎とティリッヒ
神学と哲学、境界、カイロス